

竹ポット調査報告・まなびの森



“森林の風”としての基幹事業である竹ポットを掘越してみた。写真資料として今後の参考になればと考えます。

今回掘り起こしたポット苗は、約 40 カ月の生育で、① 樹高 60cm ② 樹高 30 cm のものである。

実生種は一般的に、根の部分は樹高部と同じ大きさ（量）があるとされているが、竹ポットのままの植樹でも同じ状況がある。

実生種のため生育状況は大きな差がある。鹿害、のネズミなどの食害も大きい。

（下の写真は、掘り起こした穴）



（竹ポットの底部分の写真。） 樹高 60cm

樹高 30 cm

竹ポットの底辺を直根が突き抜ける年数で、樹高の大きさが決まるといえる。竹ポットの作り方の工夫が大きく左右すると思える。現在、5mm～6mm の穴を多く空ける方法になった。写真のポットは 9mm の穴を 5 個～6 個空けている。



輪尺で樹高部分と直根の部分と比較してください。



竹ポットを解体してみました。
 一般的なビニールポットの内部と同じ状態です。ポットの底辺から、直根が飛び出しています。
 この直根が、災害に強い森づくりに有効です。
 直根を切った苗は、横に広がりますが、直根は、地球の中心に向かって根を伸ばす性格があります。



竹ポットを割ってみると、幹と同じ太さの直根が出ているのが確認できます。この根が災害に強い山を作ると言えます。

竹ポット苗の育成は、誰でも簡単にでき森林環境教育の一環として効果があります。

現在、約１０００本の竹ポット苗を植樹しています。順次解体して成果を見極めていきたいと思っています。現在までの経過など別途報告します。